

丹波古文書倶楽部会報
古文書かわら版

第5号

事務連絡（高札場）

★十一月例会は休会です。

代わりに希望者で情報交換会を開きます。申込は岸まで

(090-8882-5537)

日時 11月12日(土)午前10時～12時 昼食は希望があれば設定可

会場 丹波の森公苑2階

談話コーナー

内容①「私の古文書勉強法」

(各自の勉強法を発表)

②「情報交換：私が調べていることや知りたい事。(各自発表)」

③ その他

★ 十二月例会

日時 12月18日(日)

午前10時～

会場 青垣住民センター大

会議室

会場準備係(敬称略)

蘆田榛五・高見勉・山内順子

※ 年度当初の当番表通りと

発行者 川口丹波守利和
編集者 延陽伯こと岸孝明
発行所 丹波古文書倶楽部

し、該当月が休会の場合は、免除するものとする。

★ フィールドワークについて

日時 12月18日(日)

午後一時半から午後四時半までフィールドワーク実施

青垣住民センター午後一時

半集合です。内容等、詳細は川口代表から発表されます。

集合場所 青垣住民センター

— 大会議室

内容(概要)

「青垣古文の会」による活動

説明、古文書解説・鑑賞の後、「脇本陣」・「高座神社」、それぞれ、現地にて、特徴や歴史

財産等の解説等をしていただきます。一般参加も歓迎ですの

で、お知り合い等誘い合わせて参加下さい。

参加費1人300円

参加費1人300円

★ 「市民活動実践グループシンポジウム2017」について

丹波古文書倶楽部が市の支

援を受けながら、生涯学習・地域貢献を実践している諸団体の活動や課題について発表すること、市民へ市民活動の意義や楽しさを広報する機会とすることを目標に以下のようにつどいを開催する予定です。

日時 平成29年2月11日

(土)午後1時30分～

場所 柏原住民センター

講演 萬浪佳隆氏(演題未定)

兵庫県公民館連合会会長

パネルディスカッション

(当倶楽部、他4団体選定中)

作品展示 パネル展示

後援 丹波市・丹波市教委、

丹波県民局他、諸団体

へ申請予定

※ お手伝いできる人を募集中

自己紹介(口上)

◆ 柏原町延陽伯こと岸孝明

古文書はポケ防止の妙薬?!

団塊世代の私は革命を夢見

ておりました。故在って三年遅

れで革命を研究したいと某大

学西洋史学専攻に入学、たちま

ちその選択誤りに気付きました

た。日本の西洋史学者の殆どは原資料を発掘・読み解くのではなく、現地学者の論文を評論しているだけだと気付いたので

以来、高校の教師をしながら、何時か古文書を読み解けるようになりたい、そして地域に残された原資料を使ってささやかな成果を残したい、と思っております。

定年退職後、丹波古文書倶楽部と出会い、はたまた気付きました。該博な日本史の知識と透徹した史観、それに鋭い問題意識がないと古文書はただの古ぼけた文書の束。

でも、一つだけ判った事があります。崩し字をああでもないこうでもない、と推論しながらこの字だと用途を付け、それが正しかった時の喜び、それはパズルを読み解く楽しさかも知れません。脳を活性化させ、新しい知識を学ぶ事はポケ防止の妙薬だと言います。

情報提供(みちしるべ)

本会員で、市島史実研究会会長として活躍されている青木正文様に竹田地区の神輿について次ページのよう解説いただきました。

丹波竹田祭・六社神輿の由来について

市島町史実研究会

青木正文

丹波竹田祭は上・中・下竹田三ヶ村六社社の合同祭礼で、上竹田の加茂神社、中竹田の加茂神社・一宮（いっきゆう）神社・伊都伎神社、下竹田の二宮神社・三宮神社から御旅をして来た六社の神輿が、一宮神社に勢揃いし、奴行列の先導に続いて「よいさー、よいさー」という威勢の良い掛け声とともに次々と宮入（みやいり）するという勇壮なお祭りです。現在は十月の体育の前日（日曜日）に行われています。

江戸時代、寛政年間に編纂された歴史書「丹波志」や、地元に残る古文書「依田文書」には、竹田三ヶ村の九社明神という記述があり、領主の違いを超えてのお参りがあったほか、祭礼

日も同じ九月二十八日であった事など、当時前山郷（庄）と呼ばれた竹田三ヶ村共通の心の拠り所となっていました。その九社明神が、江戸時代の中期以降、主に京都の松尾大社の撰社・末社が神輿を造り替えた時、古い神輿を譲渡してもらった形で徐々に神輿を整えていき、江戸後期には九社全部に神輿が揃ったことよって、九社の神輿が一斉に御旅所である中竹田の一宮神社に勢揃いするという「九社祭（くしゃまつり）」が行われるようになっていきました。ただ、何時から正式に「九社祭」として始まったかの詳細は分かっていません。

その後、明治三十九年の神社合祀令を受けて、上竹田の八幡神社が加茂神社に合祀され、下竹田では高野・日附（あこう）・九日（くにち）の三神社が合併して三宮神社となった為、大正の始めからはそれまでの「九社祭」が現在の「六社祭」となっています。

六社の神輿がそれぞれ、何時、何処からやって来たのかは、未だその全容を明らかにする

には至っていませんが、現在解明出来ていたり、推定できる事を含めて、六社の神輿の由来をご紹介します。おきたいと思えます。

・上竹田加茂神社

現在の神輿は、松尾大社の末社四之社（四之大神と言って、四季を司る神）から文化元年（1804）に譲渡されています。

但し最近、寛政四年（1792）に先代の神輿が一宮神社に御旅をした帰りに騒ぎを起こしたとの古文書が発見され、しかもこの御旅は往古からあったとされることから、神輿の存在はかなり遡ることになります。

・中竹田加茂神社

神鏡には寛文十三年（1673）松尾大宮大明神の文字があり、松尾撰社大宮社から譲渡されましたが、その時期は不明。

・中竹田一宮神社

この神輿は松尾末社四之社で文化元年（1804）に新造されたと取れる墨書があり、一宮神社はその神輿を天保2年（1831）に譲り受けています。その文化元年に四之社で造り

替えられた古い方の神輿が、上記上竹田加茂神社に譲渡されて来たものと推定されます。

・中竹田伊都伎神社

宝永六年（1709）領主萩原家（京都吉田神社の分家で公卿）の斡旋で上賀茂神社系の神社から譲渡されたと考えられます。菊の紋を許され、六社中唯一の鳳輦（ほうれん）神輿です。

・下竹田二宮神社

現在の神輿は、弘化二年（1845）松尾撰社宗像神社から珍しい狛犬付きの神輿としてやって来ました。先代の神輿も松尾撰社櫛谷（いちたに）神社から延享年間にもたらされています。

・下竹田三宮神社

三宮神社は、下竹田三社が合併して明治四十四年に誕生しました。神輿は旧高野神社の



ものを使っています。が、来歴に
ついては現在のところ不明で
す。